



ジェネックス今月のトピックス ♪



ドイツ研修！



5月31日～6月9日までドイツ研修に行かせて頂きました。
エネルギー先進国のドイツで多くのことを学びました。
その中で、再生可能エネルギーで全ての電力をまかなっているヴィルポーツリート村を訪問しました。太陽光、バイオマス、水力、風力でエネルギーをつくっています。新緑と青空が広がるとても綺麗な村でした。村長さんの「(再生可能エネルギー事業をするには)住民が利益を得て、住民が賛同して参加できることが一番重要。」という言葉聞き、そこで出会った村の人々の笑顔の理由が分かりました。
ジェネックスも再生可能エネルギーを通じて多くの皆様に笑顔にしていきたいと思えます。



「環境政策が自社に与える影響と最新動向」セミナーを開催しました

2018年5月28日、碧南商工会議所にて弊社主催のセミナーを開催いたしました。温室効果ガスに対する認識が企業によって大きく変わってきたようです。今回、企業のCO2排出量の算定を行っている会社さんにお話を頂きました。以前は、部署で調査してほしいという小規模の依頼が多かったのですが、最近では会社全体でCO2を削減する事が社会的に求められている、取引会社から削減を求められている企業が多いようです。今後もっともっとCO2削減の意識の強い企業が増えていくと感じました。



サッカーW杯が開幕しました！便乗して世界の再エネ事情をお伝え致します。中米にあるコスタリカという国ですがノーベル平和賞受賞者でもあるオスカル・アリアス元大統領が2007年7月6日に「自然と共にある平和」宣言を行い、2021年までに世界初のカーボンニュートラル国家を目指すという大胆な目標を掲げました。そして、再エネで100%電力を供給することが国家目標となってい、2015年実績で、電力の99%を再エネで発電しており、再エネ100%移行をほぼ達成しているとのことです。2016年7月は再エネ100%を達成しており、内訳は、水力が74.9%、地熱が12.9%、風力が12.19%でこの3つでほとんどの発電を行っているようです。コスタリカのような国がどんどん出てくると良いですね。



福島県、第2原発廃炉へ

東京電力ホールディングスが14日、福島第2原子力発電所4基全てを廃炉にする方針を明らかにしました。廃炉の背景には地元住民の強い思い、要請によるものがあつた。今後は廃炉作業とともに再生可能エネルギーを中軸としたエネルギー施策が進む見通し。福島県は原発事故から、原子力に依存しない社会づくりを基本理念に掲げ第2原発について12年度以降の単年度約12億円の電源立地地域対策交付金の申請を国に辞退し、再生可能エネルギーを柱とする施策を強めてきた。県内の需要量の約40%を20年度に、約60%を30年度に、100%以上を40年ごろに再生可能エネルギーで生み出すことを目指し、メガソーラーなどの導入拡大を推進している。